**小野　正文 （おの・まさふみ）**

**１、プロフィール**

太宰治、今官一らと一緒に同人雑誌で活躍した。その後も、教育界に身を置きながら、文学の世界に携わった。『太宰治をどう読むか』や『北の文脈』全４巻に大きな足跡を残した。

＜生没＞

1913（大正２）年１月４日 ～ 2007(平成19)年９月21日

＜代表作＞

『太宰治をどう読むか』『入門太宰治』『北の文脈』（全４巻）『太宰治の風土』

＜青森との関わり＞

青森市内の小中学校に入り、大学卒業とともに長く教育界に席を置きながら、研究・評論に意を注いだ。

**２、作家解説**

大正２年１月４日、父の職業の関係で岩手県久慈市に生まれた。父は北津軽郡三好村(現五所川原市）出身である。青森市で小学校を終え、青森中学校に入学した。同学年には太宰治の弟礼治がおり、太宰治も３年に籍を置いていた。

その後、官立弘前高校から東京帝国大学法学部に入学した。太宰治とは学校の後輩として、付き合いが始まる。昭和９年に太宰治や今官一らと同人誌「青い花」を創刊したが、１号で廃刊となったものの、太宰治との交際は長く続いた。

13年３月に大学を卒業し、同年９月から県立青森高等女学校兼青森県女子師範学校の教諭となった。県師範学校から、戦後は教育庁に勤め、さらに県立図書館長、県立弘前南高校校長、弘前中央高校校長を勤めた。のち、弘前大学医療短期大学、青森中央短期大学で教鞭をとった。

この間、21年「青草」には評論「文学の所在と在所の文学」小説「ローラに題す」などを書き、「東奥日報」の文芸時評などでも活躍した。「北の街」には37年７月の創刊号から「文学のある風景」を連載、続いて202回に及ぶ「北の文脈」を連載していく。

また、太宰治との関わりから『太宰治をどう読むか』(昭和37年)や『入門太宰治』(昭和41年)を刊行した。太宰治論の集大成として『太宰治その風土』（昭和61年）がある。

昭和48年『北の文脈』を刊行し、平成３年全４巻が完結した。青森県の文学者を広く取り上げたこの書は高く評価されている。『津軽の文学と風土』（昭和50年）など著書が多い。

**３、資料紹介**

〇『入門　太宰治』

図書

1966（昭和41）年10月25日

190mm×135mm

「若い読者の皆さんが、自分なりの太宰治像を胸にきざむためのお手伝いがいくらかでもできれば」ということで書きあげたもの。「一　太宰治の人間と生涯」「二　太宰治の文学と作品」の２章よりなり、太宰治の略年譜を付す。